

あけまして　おめでとうございます

新しい年、平成30年を迎えました。平成の世になって、早30年も経ったことを感慨深く思いながら、新年を迎えました。

さて、昭和生まれの私の幼少期は、毎年12月30日に親戚が集まって父たちがもちをついていました。母や叔母たちはもち米を蒸したり、白どりをしたりと、忙しく動き回っていました。手だけでなく顔にまで餅とり粉をつけて、みんなでわいわい言いながら行う作業は、大変だけれども楽しい思い出として心に残っています。そして、お正月には、みんなでついた餅を入れて、白みそのお雑煮をいただきます。卓上には、家で作ったおせち料理やにらみ鯛が並んでいる…そんなお正月の風景でした。

ところが、最近のお正月は、私が子どもの頃と比べるとずいぶん変わってきたように思います。昔は、お正月の三が日はすべてのお店屋さんが閉まってしまうため、年末の買い出しに必ず出かけていました。しかし、近年、お正月も開いているお店もあり、年末に抱えきれないほど買い出しに出かける必要がなく、普段の生活とあまり変わらない感じがします。また、おせち料理も本来は三日間かけていただく保存食であるという役割が薄れてきているように思います。便利な生活に慣れ、その恩恵を受けて過ごしている毎日ですが、便利さと引き換えに昔から伝えられてきた日本の文化がこの30年余りの間に徐々に失われてきているのは、少々残念な気もしています。

でも、新しい年を迎えると、気持ちが引き締まることに変わりはありません。「一年の計は元旦にあり」ということわざがありますが、やはり、最初にしっかりと計画を立てて物事を進めていくことが大切だと思います。さて、子どもたちは年の初めにどんな目標を立てたのでしょうか。保護者・地域の皆様方には、子どもたちが、自分の夢を実現するための目標をしっかりともち、努力し続けることができるよう、今年も見守り育んでいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

校長 今村 ひろみ